

博物館評価(2014年度)

I 博物館評価について

2010年度より、当館では事業戦略会議ワーキングチームを立ち上げて、博物館評価(自己評価)の作業を開始した。この博物館評価は、NPOが指定管理者として管理運営をする中で、事業のみならず博物館活動全般において、それまで行ってきたことをチェックして改善をはかるために実施している。ワーキングチームのメンバーはNPO法人野田文化広場事務局長と学芸員4名で、検討内容の途中経過は随時、その間に開かれた企画事業委員会や法人の理事会で報告して意見を聴取してきた。

博物館評価表(A3折込)は、当館の3つのミッション(13ページ)を大項目とし、これに対応するようにして、それぞれの具体的な目標となる中項目を設定した上でさらに具体的な評価指標の項目をあげた。そこに、指定管理運営となった2007年度以降のデータを入れ、経年的な推移を示している。またモニタリング調査等で収集したデータを加えている。

II 自己分析(Check)

①博物館機能を充実させる

資料収集や調査研究等の博物館の基礎機能を充実させる。博物館の基礎機能とは、博物館の存在基盤であるコレクションのマネジメントである。2007年度以降、本格的なコレクションの収集、整理、保管管理と公開に向けた準備作業を行ってきた。また、その情報を公開することも進めている。

【現状評価】

資料収集の状況について、収蔵点数(1)に関し、新規収蔵点数は昨年度と比べ減少した(282点)が、寄贈された資料件数(2)は前年度と同数で、例年並みであった。これは、本年度は1件複数点の紙資料の寄贈が、昨年度よりも少なかったためである。収集方法は寄贈や購入を主とし、不必要な寄託が行われないよう留意されている(3)。資料購入は昨年度よりも購入総額は下がっているが件数は増加しており、予算を効果的に活用して必要な資料を購入することができたと考えられる(4)。また、昨年度に引き続き移管資料はなかった(5)。

資料の保管状況について、本年度は燻蒸の実施年度ではなかった(6)が、粘着トラップによる収蔵庫の定期的なモニタリングを継続して実施した。虫害等は発生していないが、定期的な点検は不可欠であり、今後も今年度と同程度の回数(7)を維持していく予定である。

資料再整理業務の実施状況を表す収蔵庫での作業日数(8,9)については、昨年度同様にそれほど多い日数でないが、これは、今までに蓄積してきた資料情報のデータベースへの入力作業に力を入れて行ったためである。3月にはホームページに新たに設けた「資料データベース」で368点の資料を公開することができた。今後も継続的に整理・入力を進め、公開数を増やしていきたい。

学芸員の活動について、学芸員の講演回数は昨年とほぼ同数となっている(10)。学芸員による館外調査の件数は例年にくらべて大きく減少している(11)が、これは今年度の特別展が例年よりも早い7月に開催されたため、調査自体も前年度から行っていたことや、市民が主体となっていく市民の文化活動報告展が開催されたためである。館蔵資料閲覧の件数(12)は昨年度と同数であった。新規収蔵資料の公開は引き続き企画展「野田に生きた人々 その生活と文化」の展示スペースの半分を充てて行い受け入れ件数ベースですべて紹介をした(13)。博物館の資料収集活動についての市民への説明責任を果たすと同時に、展示内容に変化を生み出す意味でも効果的に機能している。資料貸出件数は例年並み(14)であるが、近隣の博物館で醤油に関わる展覧会が複数開催されたため、醤油番付や看板などの醤油関係資料が貸し出された。醤油関係資料は当館の主要なコレクションの一つであり、当館のみならず他館でも積極的に活用されることを期待したい。画像の提供、利用許可件数は昨年度に比べて大きく増加してい

る(15)。これは、新聞などによる展覧会の取材が非常に多かったことが要因である。

【改善を要する点等】

前年度より引き続き良好に経過していると思われる。

②利用者サービスを図る

すべての利用者に開かれた博物館として、幅広い層の人びとが来館することを目指している。そのために、公共施設としての基本的な機能を維持し、さらに館内施設の充実や利用者・関係者の満足度やニーズを把握して質の高い市民サービスを提供することを心掛けてきた。

【現状評価】

博物館、市民会館ともに通常ベースの開館日数であった(16,17)。博物館の総入館者数と1日平均入館者数は計測開始以降最多となった昨年度とほぼ同数であった(18,19)。リピーター率は昨年度に比べて下がっているが例年並である(20)。これまで初めて博物館を利用した「新規来館市民の割合」も下がっている(37)が、博物館の総入館者数は増えていることから、市外の初来館者が増加した可能性もある。

市民会館の方では、総入館者数と貸部屋利用団体数は昨年度よりも増加し(21,24,25)、過去最多となった。1日平均入館者数と貸部屋稼働率は昨年度とほぼ同数であった(22,23)。また、今年度は2011年度以来3年ぶりに貸部屋利用者満足度(28)のアンケート調査を行った。新たな定期利用団体が増えるなどしているが、依然高い水準を示しており、今後もこれを維持していきたい。

来館者が利用に満足しているかどうかのチェックである、展覧会の満足度、施設の雰囲気や居心地に対する満足度はいずれも微増した(26,27)。展覧会の満足度については、漫画展、絵はがき展が90ポイントを超えており、今後もこの値を維持することが望ましい。

職員・スタッフの対応を受けた来館者の割合(29)は減少したが、対応の満足度は引き続き高い値を保った(30)。

博物館刊行物の販売(32)は、特別展図録『野田で生まれた漫画たち』が好調な売れ行きを示した。昨年度の特別展図録『野田の絵馬』が会期中に完売し、不足したことを受けて、今年度は印刷部数を増やしたため、売切れることもなく、会期終了後の在庫数も適度な量となった。刊行物以外の品物の売り上げは昨年度に比べて増加した(33)。今年度は昨年度に課題としていた恒常的に販売できるグッズの開発に取り組んだ。野田貝塚出土のミミズク形土偶「ミミー」をキャラクター化し、「ドグウのミミー缶バッジ」(全6種)を作成した。4月から展示室内のカプセル自動販売機で販売したほか、ガイド展会期中限定で「ドグウのミミー缶バッジ」(ガイド ver.)も販売した。また、12月から郷土博物館と市民会館の見どころを撮影した絵はがき(全16種)を発行した。いずれも100円(税込)と単価が安いので売上金額としては大きなものではないが、缶バッジ(全6種)も絵はがきも年間を通して売ることができ恒常的なグッズであるため、今後のグッズ開発や利用者のニーズを知る上でも、売れ行きを見守っていきたい。

【改善を要する点等】

前年度より引き続き良好に経過していると思われる。市民会館の利用団体が増えていく中で、利用マナーや部屋利用者と見学者の共存などが問題になってくる可能性もあるため、今年度実施した貸部屋利用者満足度のアンケート調査は今後も定期的にも実施していく必要がある。

③市民の交流の拠点にする

市内の様々なコミュニティに属する団体と広く連携をし、博物館がコミュニケーションの推進役となることで、地域の活性化・まちづくりに繋げていくことを目指してきた。

【現状評価】

交流事業は、台風での中止が続いていた観月会が3年ぶりに開催されたため、来場者数は多くなった(38)。さまざまなコミュニティとの連携(39~43)では、比較的バランスよく新規の連携関係を得ることができた。本年度新たに関係のあった団体の具体的な概要は表1の通りである。

近年増えている小学校3年生の「昔の暮らし」の単元での団体見学は今年度も変わらず多く、火のしや電話機などを活用した体験が好評を博している。また、今年度は、6年生のキャリア教育で学芸員の仕事について話す機会をいただいた。歴史や郷土の学習だけでなく、

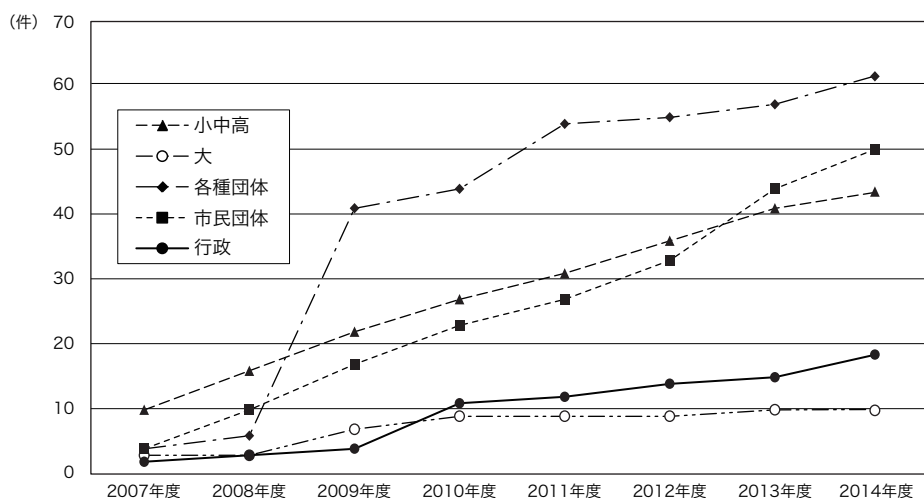
キャリア教育の中で博物館を活用してもらえることは、非常に喜ばしいことである。また、昨年度に学芸員1名が文部科学省の学芸員等在外派遣研修制度を利用し、英国で博物館におけるソーシャルインクルージョン活動の調査を行ったことを活かし、市内の福祉施設スタッフと連携したワークショップ形式の講座を開催した(詳細は50ページ参照)。

【改善を要する点等】

例年の課題であった各種団体(農・商工・医療福祉)との連携(41)について、在外派遣研修の成果を活用して事業を行うことができたが、今後も継続して増やしていく必要がある。また、「昔の暮らし」での小学校団体見学は定着してきている感もあり、今後も積極的に来館してもらえるよう努めていきたい。

コミュニティの種別	団体・グループ名	内容
小中高専	野田市立宮崎小学校3年生(なかよし学級)	小学校見学
小中高専	野田市立二川小学校6年生	キャリア教育授業
各種(福祉)	しゃべり場だんだん	講座、寺子屋講師
各種(商工)	カイロプラクティック健美館	寺子屋講師
各種(その他)	鶉渡川原人形伝承の会	寺子屋講師
各種(その他)	Museum 2015 実行委員会	エクスカーション受入
市民団体	なつかしの道具探究会	企画展、関連事業
市民団体	桜の里自治会	講演
市民団体	野田市ボランティア連絡協議会	ワークショップ指導
市民団体	三友書園	寺子屋講師
市民団体	野田スカイスポーツ振興会	寺子屋講師
市民団体	ハーモニカクラブけやき	コンサート
行政	千葉市立郷土博物館	寺子屋講師
行政	千葉県教育委員会	講演
行政	川崎市市民ミュージアム	特別展

表1 新たに連携をした団体・グループ(2014年度)



④市民や市役所との意思疎通を図る

博物館職員と市民とが対等にコミュニケーションをすること、管理課との意思疎通をスムーズに行い、円滑な博物館運営につなげることを目指してきた。

【現状評価】

博物館と市民との交流の場となっている特別展オープニングレセプションは、今年度も展示協力者も含め、一定数の参加を得ることができた(46)。また、2012年度より設けられた博物館懇談会は、今年度より年2回の開催とした(47)。市民委員5名に向けて展示等の事業報告や事業計画について説明をし、いずれの回も有益なご指摘をいただいた。特に今年度の特別展「野田で生まれた漫画たち」は、2012年度の博物館懇談会で委員よりいただいた意見を参考に企画したものであり、今後も様々な事業に関する意見交換を行っていききたい。本懇談会は博物館評価の一環として位置付けられるものであり、懇談会議事録はホームページでも公開をしている。

次に行政(本庁)と博物館との関係について、博物館職員の訪庁回数(50)は例年並みであったが、市職員の来館回数(48)と市長、副市長、教育長の来館回数(49)が減少している。

【改善を要する点等】

館職員の訪庁と市職員の来館について、円滑な意思疎通のためには、双方がバランスよく訪れることが望ましいと考えられる。来館へのはたらきかけを行っていききたい。

⑤博物館の活動を広める

情報発信をし、市民が博物館の情報を入手しやすい環境を作ってきた。また、メディアに取り上げてもらうことによって、博物館や野田の魅力の向上に努めてきた。

【現状評価】

TV、雑誌、新聞掲載、ロケ地としての利用回数が昨年度に比べて大きく増加した(51,52,53)。特に展覧会に対する新聞の取材が多かった。昨年度リニューアルしたホームページは、セッション数が増加している(54)。今年度は3月に新たに資料データベースのページを開設し、収蔵品368点の公開を行った。今後どの程度利用されていくか注目したい。また、以前から要望のあった、博物館と市民会館の両施設を合わせたパンフレットを作成し、当館や近隣施設で配布した。

【改善を要する点等】

全体的に順調に推移していると思われる。

⑥市民のキャリアデザインに貢献する

市民が、キャリアデザイン事業に関心をもって参加することを目指した。また、ライフキャリアの各段階に応じた支援をすることで、市民が、学習目標の達成、キャリアの再設計、社会参加や地域貢献へつなげていけるようにした。

【現状評価】

寺子屋講座の平均参加者数(56)、キャリアデザイン事業の平均参加者数(57)、市民参加型企画展の平均入館者数(55)は安定して推移している。モニタリング調査で計測している親子、3世代来館の割合(58)、キャリアデザインの拠点機能の既知(59)も昨年度と同程度であった。

市民のキャリアのステップアップにおいては、なつかしの道具探究会が8月をもって3年間のサポート期間を終えた(60,61)。12月からは来年度の市民の文化活動報告展に向けての準備を行っている。

昨年度から13人体制となった博物館ボランティアは、今年度末にはメンバーの都合により11名体

制となったが、開館日中の常時有人化という目的に向けて各メンバーがシフトを調整してくれたため、博物館開館日 273 日中、実際の業務従事日は 230 日(64 ページ参照)となり、昨年度に引き続き有人日は 8 割を超えた。来館者への対応も好評を得ており、展示アンケート(44~48 ページ参照)やモニタリング調査(30)からもうかがうことができる。

【改善を要する点等】

自主研究グループにおいては、なつかしの道具探究会が自主活動に移行したことを受けて、全てのグループが自立した。今後はこれまでの経験や反省を踏まえて、効果的な講座の実施やグループ結成後の中長期的なサポートのあり方を検討していく必要がある。人材バンクについては、未だ内部的な活用に留まっており、利用は少ない(64,65)ため、学校関係者や NPO などを念頭に、活用を図れるような体制づくりを進めていきたい。

	中項目	小項目	評価指標	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	凡例	
掘り起こし活用する博物館 ミッション1 地域の文化資源を	①博物館機能を充実させる	資料の収集を行っているか	1 資料収蔵点数	16,673点	18,014点	19,750点	20,762点	21,901点	22,227点	22,625点	22,907点	当館蔵の資料総数。1件に複数点の資料が含まれる場合、点で計上。	
			2 寄贈された資料件数	10件	96件	156件	84件	102件	179件	98件	98件	当該年度に市民等から寄贈された資料数。資料台帳に登録された件数で計上。	
			3 寄託された資料件数	1件	13件	0件	4件	1件	2件	0件	0件	当該年度に寄託された資料数。資料台帳に登録された件数で計上。寄託資料のため、所有者に返却することで数が減じた場合は-で相殺する。	
			4 購入した資料件数	18件/960,905円	11件/137,870円	7件/880,288円	26件/487,230円	47件/949,090円	33件/828,200円	16件/804,550円	42件/666,650円	当該年度に購入した資料数。資料台帳に登録された件数/購入総額を記載。	
			5 移管された資料件数	0件	5件	63件	4件	4件	0件	0件	0件	当該年度に移管された資料数。資料台帳に登録された件数で計上。	
		資料の保管状況は良好か	6 燻蒸回数	1回	0回	1回	0回	1回	0回	1回	0回	0回	収蔵庫内の燻蒸の実施回数。隔年で実施。
			7 収蔵庫、展示室ケース内の粘着トラップの点検回数	-	-	14回	15回	15回	9回	4回	10回	展示室と収蔵庫に設置している虫害検査用粘着トラップの点検回数。	
		収蔵資料は利用・公開しやすいよう整理が進められているか	8 本館収蔵庫での作業日数	-	-	-	-	-	33日	13日	11日	11日	本館収蔵庫に入庫し、清掃や整理等、資料整理(再整理含む)に関する作業を行った日数。
			9 上花輪収蔵庫での作業日数	-	-	-	-	-	13日	18日	20日	20日	上花輪収蔵庫に行き、資料整理等の作業を行った日数。
		学芸員は調査研究発表を行っているか	10 学芸員の講演・講座等の講師件数	2件	10件	11件	8件	16件	9件	5件	7件	7件	学芸員が業務内および業務外で講師等をつとめた件数。
			11 学芸員による館外調査の件数	-	-	63件	73件	79件	75件	86件	29件	29件	学芸員が展覧会や資料調査等の目的で、館外で調査を行った件数。
		収蔵資料を公開しているか	12 館蔵資料閲覧の件数	-	-	11件	48件	35件	35件	20件	20件	20件	展示をしていない館蔵資料に対して閲覧申請を受け、対応をした件数。
			13 過去2年間の新規収蔵資料の展示公開割合	-	-	-	-	100%	100%	100%	100%	100%	前々年度と前年度に寄贈、寄託、購入により収集した資料を、展示や特別公開等の手段で一般公開した割合。寄贈者数をベースに計上(複数点ある「資料群」を収集した場合はそのうちの1点以上を公開)。また、調査参考目的で収集した資料(古書籍等)は対象外とする。
			14 他機関への資料貸出件数	2件	4件	7件	7件	4件	7件	4件	4件	5件	他機関への博物館資料等の貸出件数。
			15 他機関等への画像の提供、利用許可件数	9件	11件	14件	19件	25件	28件	47件	82件	82件	他機関への画像(ポジ、データ)等の提供や申請者が撮影した写真の利用許可件数。
16 博物館開館日数	284日		231日	249日	254日	273日	269日	264日	273日	273日	火曜日・年末年始などの定期休館日、整備工事、展示替えやイベント等に伴う臨時休館日を除いた、年間の開館日数。		
②利用者サービスを図る	開館日数は十分か	17 市民会館開館日数	316日	312日	311日	265日	311日	308日	309日	311日	311日	博物館開館日の入館者数。入り口のカウンタで計上。	
		18 博物館入館者数	22,642人	23,977人	24,168人	28,583人	29,868人	29,753人	31,328人	32,164人	32,164人	博物館開館日の入館者数。入り口のカウンタで計上。	
	施設の利用率は保たれているか	19 博物館1日平均入館者数	79.7人	103.8人	97.1人	112.5人	109.4人	110.6人	118.7人	117.8人	117.8人	博物館開館日の入館者数を開館日でならしたものの。	
		20 特別展・企画展の平均リピーター率	46.1%	47.9%	36.8%	44.0%	50.3%	52.2%	54.2%	46.6%	46.6%	年間の展覧会アンケート回収枚数のうち、来館回数が2回目以上とした回答の割合。	
		21 市民会館の入館者数	4,844人※23月のみ	42,701人	43,741人	44,575人	44,508人	47,114人	46,276人	50,660人	50,660人	市民会館開館日の入館者数。正面玄関と内玄関の2箇所の入り口のカウンタで計上。	
		22 市民会館1日平均入館者数	146.8人※23月のみ	136.9人	140.6人	168.2人	143.1人	153.0人	149.8人	162.9人	162.9人	市民会館開館日の入館者数を開館日でならしたものの。	
		23 市民会館貸部屋稼働率	84.8%	91.3%	93.6%	97.0%	93.6%	96.4%	96.1%	96.8%	96.8%	市民会館の開館日のうち、貸部屋が利用された日の割合。	
	24 市民会館の貸部屋利用団体数(市内)	603件	758件	804件	903件	962件	933件	986件	1,024件	1,024件	貸部屋申込団体のうち、市内の団体あるいは在住者が申し込み、利用した件数。		
	25 市民会館の貸部屋利用団体数(市外)	1件	13件	17件	28件	32件	30件	36件	42件	42件	貸部屋申込団体のうち、市外の団体あるいは在住者が申し込み、利用した件数。		
	来館者は利用に満足しているか	26 特別展・企画展の平均満足度	90.2 pt	89.1 pt	86.5 pt	87.3 pt	88.1 pt	85.4pt	89.4pt	91pt	91pt	展覧会アンケートの該当項目を点数化(※1)したもの。	
		27 博物館の雰囲気、居心地に対する満足度	85.9 pt	84.3 pt	86 pt	84.9 pt	86.7 pt	84.4pt	87.4pt	89pt	89pt	展覧会アンケートの該当項目を点数化したもの。	
		28 貸部屋利用者満足度	-	-	-	-	86.7 pt	-	-	85.8pt	85.8pt	市民会館利用者アンケート(※2)の総合的満足度を点数化したもの。	
		29 職員・スタッフの対応を受けた来館者の割合	-	-	-	-	84.6%	85.8%	86.8%	82.5%	82.5%	モニタリング調査(※3)の該当項目より計上。	
		30 職員・スタッフの対応を受けた来館者の対応満足度	-	-	-	-	93.7pt	90.9pt	90.1pt	90pt	90pt	モニタリング調査の該当項目を点数化したもの。	
	ミュージアム・ショップは機能しているか	31 しょうがい者、高齢者等で、見学に補助が必要な方への対応件数	-	-	-	-	9件	9件	1件	4件	4件	当館職員、博物館ボランティアが、車椅子での移動(段差部分等)の介助、筆談等で見学を補助した件数。	
32 博物館刊行物の販売冊数		326冊	284冊	713冊	637冊	541冊	685冊	543冊	670冊	670冊	博物館発行の図録や書籍の販売冊数の合計。委託書籍は含まない。		
33 刊行物以外の品物の売り上げ		-	-	-	-	356,620円	351,153円	93,080円	151,183円	151,183円	書籍以外のグッズ類販売(自主事業)の売り上げ。		
34 博物館・市民会館へ利用者は迷わず来られるか		-	-	-	-	68.9 pt	86.9pt	-	-	-	モニタリング調査の該当項目を点数化したもの。		
35 自家用車によるアクセス満足度		-	-	-	-	85.2 pt	82.5pt	-	-	-	モニタリング調査の該当項目を点数化したもの。		
36 清潔さは保たれているか		-	-	-	-	10回	5回	5回	5回	5回	学芸員が市民つどいの間を清掃した回数。定期的な(日々の)清掃を除く。		
37 これまで博物館を利用してこなかった市民に利用されるようになってきているか		-	-	-	-	13.6%	15.7%	21.1%	13.9%	13.9%	モニタリング調査において、市内在住かつ初来館であると回答した利用者の割合。		
③市民の交流の拠点にする	施設が市民の交流と連携の場(ハブ)の役割を果たしているか	38 交流事業の参加者総数	560人/6回	332人/3回	303人/3回	173人/2回	227人/3回	240人/2回	170人/2回	279人/3回	279人/3回	「観月会」「ミュージアム・コンサート」、その他セレモニーなどの参加者総数。交流事業に分類されている事業のうち、学校見学対応は含まない。	
		39 小学校、中学校、高校、専門学校との連携件数	10件	16件	22件	27件	31件	36件	41件	43件	43件	市内外の学校との連携の累積件数(※4)。見学会、職場体験、学芸員による講演や出張授業、学校(クラブ)によるレセプションへの出演など。	
		40 大学との連携件数	3件	3件	7件	9件	9件	9件	10件	10件	10件	大学との連携の累積件数。特別展のための合同調査、インターン受入、学芸員による講義、学生のスタッフ業務など。	
		41 各種団体(農・商工・医療福祉)との連携件数	4件	6件	41件	44件	54件	55件	57件	61件	61件	各種団体との連携の累積件数。団体代表者への寺子屋講師依頼、学芸員による講演、展覧会や事業への協力など。	
		42 市民団体との連携件数	4件	10件	17件	23件	27件	33件	44件	50件	50件	市民団体との連携の累積件数。市民団体とは、市民が文化活動、NPO、ボランティア(農・商工・医療福祉以外の分野)の活動を行う団体。	
		43 行政との連携件数	2件	3件	4件	11件	12件	14件	15件	18件	18件	学校以外の公共機関(公共博物館を含む)や行政機関との連携の累積件数。事業共催、展覧会協力、行政職員への寺子屋講師依頼、学芸員による講演など。	
		44 当館のまちづくりの拠点機能を知っている市民の割合	-	-	-	-	52.3%	43.5%	-	49%	49%	モニタリング調査の該当項目より計上。	
	地域産業のPRになる取り組みをしているか	45 土産物マップの印刷枚数	-	-	-	-	2,700枚	-	-	2,070枚	2,070枚	野田散策 MAP「土産物編」の印刷枚数。なお印刷したものはすべて当館内で配布している。	

	中項目	小項目	評価指標	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	凡例
集い交流する博物館 ミッション2 人やコミュニティが	④市民や市役所との意思疎通を図る	博物館は市民と意思疎通する機会を設けているか 行政は博物館・市民会館に関心を向けているか	46 特別展オープニングレセプションの参加者数	12人	50人	80人	45人	55人	38人	46人	35人	特別展の初日に行われるオープニングレセプションへの参加者数。
			47 博物館懇談会の回数	—	—	—	—	—	3回	3回	2回	博物館評価の一環として市民から博物館へ意見をもらう懇談会の開催回数。
			48 市職員の来館回数	195回	76回	70回	107回	123回	194回	223回	82回	日々の業務の中で市職員が来館した回数。館務日誌から計上。
			49 市長、副市長、教育長の来館回数	12回	2回	6回	6回	16回	12回	18回	6回	公式・非公式を問わず来館した回数。
			50 博物館職員の訪庁回数	—	—	—	—	167回	188回	138回	171回	当館職員が業務のため市役所を訪問した回数。
⑤博物館の活動を広める	情報を発信しているか	51 TVで博物館が取り上げられた件数	11件	9件	8件	8件	8件	6件	3件	6件	TVのニュースや特集番組で当館及び当館事業が紹介された件数。ケーブルテレビを含む。	
		52 新聞で博物館が取り上げられた件数	11件	22件	14件	18件	14件	10件	10件	17件	新聞で当館及び当館事業が紹介された件数。	
		53 ロケ地としての利用回数	0回	1回	1回	3回	1回	1回	2回	8回	市民会館がCMや映画等のロケ地として使用された回数。実績はTVドラマ、TVCM、CDジャケット撮影、雑誌撮影など。非商用の撮影利用は含まない。	
		54 ウェブサイトのアクセス件数	—	40,522件	56,828件	61,531件	52,021件	50,807件 ※4月～2月まで	16,343件	22,050件	ホームページのリニューアルによりカウント方法が変更(※5)。ホームページ管理業務委託者より提出される月例報告を元としたセッション数。ユーザーがサイトに訪れた回数で、30分以内の同一ユーザーの再訪問はカウントされない。	
キャリアデザインをはかる博物館 ミッション3 人びとの生き方や成長を支援して、	⑥市民のキャリアデザインに貢献する	市民が関心を持ち、事業参加しているか	55 市民参加型企画展(年1～2回)の平均入館者数	5,404人	4,909人	5,969人	8,510人	8,113人	8,475人	7,987人	7,872人	「市民コレクション展」「市民の文化活動報告展」「市民公募展」「市民アート展」など市民参加型企画展開催時の博物館入館者数合計を、企画展開催回数でならしたもの。
			56 寺子屋講座(年22～24回)の平均参加者数	21人	16人	16人	16人	20人	17人	20人	20人	寺子屋講座「まちの仕事人講話」と「芸道文化講座」の参加者数合計を開催回数でならしたもの。受付簿を元に計上。
			57 キャリアデザイン事業(講座関係)(年7～10回)の平均参加者数	9人	19人	13人	14人	9人	16人	18人	15人	「自主研究グループ育成講座」「キャリアデザイン連続講座」「キャリアデザイン講演会」「ワークショップ」「親と子の茶道講座」の参加者数を開催回数でならしたもの。受付簿を元に計上。連続講座の場合は延べ回数+延べ人数で計上。
			58 親子、3世代来館の割合	—	—	—	—	8.2%	15.4%	7.3%	6.7%	モニタリング調査において、親子あるいは3世代で来館したと回答した利用者の割合。
	59 「市民のキャリアデザインの拠点」機能を知っている来館者の割合	—	—	—	—	46.4%	38.9%	—	47.1%	モニタリング調査の該当項目より計上。		
	市民がキャリアのステップアップを図っているか	60 2011年度自主研究グループ「なつかしの道具探究会」の人数					5人 (うち新規0人)	6人 (うち新規2人)	7人 (うち新規1人)	7人 (うち新規0人)	講座後、自主研究グループ結成の呼びかけに応じて参加した修了者の人数。結成年度以降は当該年度末時点の会員数。()内は、当該年度に新たにメンバーに加わった人数。	
		61 2011年度自主研究グループ「なつかしの道具探究会」の活動回数					13回	23回	24回	11回	「なつかしの道具探究会」が活動した回数。博物館で把握している活動を計上。	
		62 自主研究グループの活動実施回数合計	3回	2回	16回	22回	32回	43回	43回	11回	これまで発足した自主研究グループの活動実施回数の合計。	
		63 事業参加者のうち寺子屋講師を務めた人の件数	4件	2件	4件	8件	6件	7件	4件	6件		
		64 人材バンク登録件数	—	—	—	137件	154件	170件	190件	212件	人材バンクに登録された人数。	
		65 人材バンク閲覧件数	1件	1件	1件	2件	2件	2件	0件	0件	人材バンクを閲覧、あるいは職員が人材バンク情報を利用して人材を仲介した件数。	
66 博物館ボランティアの活動延べ人数				168人	348人	480人	449人	549人	560人	博物館ボランティアの通常業務、および月例の連絡会、研修会への参加人数。ボランティアの出動簿を元に計上。		

■：該当する事業が開始されていない年 —：データがない年

- ※1 展覧会アンケートの4段階の選択肢の上位から100、75、25、0ポイント(pt)を付与し、当該項目回答者総数で除して算出した点数。
- ※2 市民会館の頻繁な利用者(おおむね月2回以上利用する団体のメンバー)に直接アンケートを手渡して回収。2007年～2010年度非実施。2011年度回収枚数66枚。2012年度、2013年度非実施。2014年度回収枚数98枚。
- ※3 開館日から無作為に抽出した10日、9時～17時の間、当館入口(門2か所)から出てくる利用者全員を対象に(団体等複数人の場合はその内の1名)対面式(インタビュー形式)の調査。2011年度より実施。2011年度回収枚数306枚。2012年度回収枚数266枚。2013年度回収枚数262枚。2014年度回収枚数164枚。
- ※4 市民個人ではなく、市内コミュニティ(団体や組織)との「つながり」が出来たものを1件として累積計上。資料調査、講演協力、団体や組織としてのイベント参加及び協力、施設管理に関わるもの等を含む。
- ※5 2013年4月1日にリニューアルしたホームページを公開。それに伴いアクセス解析のソフトもwebalizerからGoogleAnalyticsに変更になり指標も変わった。2013年度を境にアクセス解析の指標の数字が大幅に下がっているのは、ソフトの計測方法の違いによるものである。

2013年度年報紀要に公表した数値のうち、「62 自主研究グループの活動実施回数合計」は集計に誤りがあり、このたび修正した数値を掲載いたしました。お詫びして訂正いたします。